

審査結果報告書

2024年 9月 4日

主査 氏名 村雲 芳樹



副査 氏名 山下 拓



副査 氏名 吉田 如



副査 氏名 長塩 亮



1. 申請者氏名 : DM20002 井上 明美

2. 論文テーマ :

TP53 positivity combined with high fibrinogen expression defines a subtype of oral squamous cell carcinoma with an unfavorable prognosis
(口腔扁平上皮癌における p53/Fibrinogen 陽性癌は予後不良である)

3. 論文審査結果 :

本研究は、口腔扁平上皮癌の予後予測マーカーとして、近年悪性腫瘍の予後との関連が指摘されているフィブリノゲン(FIB)が有用かどうかを検討した研究である。口腔扁平上皮癌でのFIB、p53、p16、CK17の免疫染色強度を算出し、血漿FIB値と合わせて予後因子としての有用性を検討した結果、p53とFIBの両者が高値の症例が有意に予後不良であり、予後因子として有用であると結論づけた。

審査会では以下の点について討論を行った。

- ・ FIBの染色強度は扁平上皮癌の深部浸潤、横への進展のどちらと関連があるか。
- ・ 手術により病変を摘出した後は、血漿FIBの値は下がるのか。
- ・ p53は変異型か野生型かの検討は行ったか。
- ・ FIBの染色性は腫瘍浸潤部が高いというようなheterogeneityがあったか。
- ・ EMTと関連があることから、扁平上皮癌の分化度との関連はどうか。
- ・ 免疫チェックポイント阻害薬使用により予後が変わるので、今後の検討課題に。
- ・ 非腫瘍症例はどのような症例を用いたか。炎症性口腔疾患は用いたか。
- ・ FIBがEMTを誘導するメカニズムは。
- ・ 血清FIBか腫瘍の免疫染色によるFIB染色強度のどちらが予後因子として有用か。

審査会では多くの質問に対して適切に回答しており、また多くの臨床的研究データが提示され、今後の口腔扁平上皮癌研究において多くの情報を提供する研究と考えられるため、博士の学位に相応しいとの結論に至った。